

The Record

2009-09 Vol.598



特集

伝えたい 音楽ビジネスと著作権の重要性
— 修学旅行生 職場訪問の現場から —



社団法人 日本レコード協会



Contents

Monthly News Digest	1
特集	
伝えたい 音楽ビジネスと著作権の重要性	
ー 修学旅行生 職場訪問の現場から ー	3
特報	
レコード倫理審査会の役割と責任	7
音楽著作権関係の権利者7団体	
「権利制限の一般規定」について意見書を提出	9
納本制度の役割と音楽文化の保存	10
私の一枚	11
Data File	12
Monthly Production Report	13
GOLD DISC	14

7/30

違法対策に関する 記者懇談会開催



説明を行う川瀬真 文化庁長官官房著作権課 著作物
流通推進室長

7月30日、東京都港区のTEPIAにおいて、当協会広報委員会は、新聞・WEB・雑誌の記者を対象とした懇談会を開催した。本懇談会は、6月12日に、違法にアップロードされた音楽ファイル等のダウンロード違法化を含む改正著作権法案が国会で可決されたことを受け、本改正法の意義と、当協会および当協会会員社が行っているインターネット上の違法対策への理解・認知を目的に開催された。

開催に先立ち、当協会広報委員会小池委員長(キングレコード(株)代表取締役会長)は、著作権法改正に尽力された文化庁著作権課をはじめとする関係者に感謝の意を述べた上で、この改正を違法な音楽ファイル等の流通を撲滅するための著作権啓発活動の最大のチャンスと捉え、政府関係者および関係団体と協力しながら改正著作権法(ダウンロード違法化)の周知徹底を図っていく決意を語った。

続いて、文化庁長官官房著作権課川瀬真著作物流通推進室長より、ダウンロード違法化を中心とした著作権法改正について説明が行われ、その後、当協会畑情報・技術部長より、インターネット上における違法対策の取り組みについて報告が行われた。

7/30

携帯電話向けレンタル掲示板 運営事業者に対して 違法音楽ファイルなどの 自主的な監視・削除を要請

7月30日、当協会は、携帯電話向けレンタル掲示板サービスを提供している運営事業者に対し、利用者が掲示板で権利者の許諾なく公開している市販の音楽CD等から作成した携帯電話再生用の音楽・映像ファイルについて、運営事業者による自主的な監視・削除、違法に音楽ファイルを公開した利用者のサービス利用停止などの措置を要請する文書を発送した。

携帯電話向けに提供されているレンタル掲示板サービスでは、利用者が権利者の許諾なく音楽・映像ファイルを不特定多数の利用者に公開する違法行為が蔓延しており、当協会および当協会会員社は、レンタル掲示板サービスを提供する運営事業者に対する違法ファイルの削除要請など、さまざまな対策を講じてきた。

しかし、既に報道されている通り、携帯電話向け違法音楽サイト「着うたキングダム」(岡山県)や「第③世界」(京都府)の摘発、また掲示板サービスを利用した著作権侵害行為者(福岡県)の摘発などの事件が後を絶たないのが現状である。このような状況を受け、ある大手掲示板運営事業者では、自主的に掲示板のモニタリングを行い、違法な音楽・映像ファイルを監視・削除する体制を組み、実施している。掲示板サービスは多くの青少年が利用しており、それら青少年保護の観点から、当協会は、掲示板運営事業者は事前に違法な音楽・映像ファイルを排除する対策を講じ、健全な利用環境を提供することが社会的に必要とされていると考え、他の掲示板運営事業者においても同様の対策を講じることを求める要請文書を送付した。



このエルマークは、
レコード会社・映像製作会社が提供する
コンテンツを示す(社)日本レコード協会の
登録商標です

『JAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ) 2009』 開催のお知らせ

9月24日より「東京ゲームショウ2009」「日本ゲーム大賞2009」を皮切りに『JAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ) 2009』がスタートする。コ・フェスタは日本が誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントが連携して開催される世界最大規模の統合的コンテンツフェスティバルである。今年で3年目を迎え、音楽分野では、2009 6th TAM「第6回東京アジア・ミュージックマーケット」が開催される。詳しくは、下記URL参照。

<http://www.cofesta.jp/>

CoFesta2009 オフィシャルイベント一覧

オフィシャルイベント	開催期間	主な開催場所
東京ゲームショウ2009	9/24(木)～27(日)	幕張メッセ
日本ゲーム大賞2009	9/24(木)～27(日)	幕張メッセ
KYOTO Cross Media Experience (KYOTO CMEX) 2009	9/26(土)～10/4(日)	京都駅・祇園エリア 烏丸御池エリア 京都太秦エリア
CEATEC JAPAN 2009	10/6(火)～10(土)	幕張メッセ
東京コンテンツマーケット2009	10/14(水)～16(金)	東京ビッグサイト 東1ホール
ライセンス・アジア 2009	10/14(水)～16(金)	東京ビッグサイト 東1ホール
ジャパン・アニメコラボ・マーケット2009 (JAM2009)	10/15(木)～18(日)	秋葉原UDX
秋葉原エンタまつり2009	10/17(土)～25(日)	秋葉原UDX、 秋葉原地区販売店 他
第22回東京国際映画祭	10/17(土)～25(日)	六本木ヒルズほか
第6回文化庁映画週間 ― Here & There	10/17(土)～23(金)	六本木ヒルズ
国際ドラマフェスティバル in TOKYO2009	10/19(月)～22(木)	明治記念館、 千代田放送会館、 六本木ヒルズ
第6回東京アジア・ミュージックマーケット (6thTAM)	10/19(月)～23(金)	品川プリンスホテル、 ステラボール
第9回「東京発 日本ファッション・ウィーク」	10/19(月)～25(日)	東京ミッドタウン
TIFFCOM2009 ～Marketplace for Film&TV in Asia	10/20(火)～22(木)	六本木ヒルズ森タワー 六本木アカデミーヒルズ 40F、49F
ジャパン・ロケーション・マーケット2009	10/20(火)～22(木)	六本木ヒルズ
第26回ATP賞テレビグランプリ2009	10/22(木)	六本木ハリウッドホール
デジタルコンテンツEXPO 2009	10/22(木)～25(日)	日本科学未来館、 東京国際交流館
第36回「日本賞」教育コンテンツ 国際コンクール	10/22(木)～28(水)	NHK放送センター

初日開催日順
2009年8月19日現在

※日程・場所は変更する場合があります

第16回日本プロ音楽録音賞 2009応募受付開始

(社)日本オーディオ協会、(社)日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、演奏家権利処理合同機構 Music People's Nest (MPN)、および当協会の5団体が主催する「第16回日本プロ音楽録音賞2009」の応募受付が9月1日(火)より開始された。

日本プロ音楽録音賞は、録音エンジニアの技術と社会的地位の向上を目的とし、録音エンジニアが制作した音楽録音作品を顕彰する日本で唯一の制度であり、日本国内において企画・制作され、2008年9月1日から2009年8月31日までの間に初めて発売、または公に放送された音楽録音作品が審査の対象となる。

応募締め切りは9月30日(水)。

詳しくは、下記URL参照。

<http://www.japrs.or.jp/pmr/index.html>

2009年8月会議メモ

8/6 広報委員会

8/10 レコード倫理審査会

8/24 予算委員会

伝えたい 音楽ビジネスと著作権の重要性

— 修学旅行生 職場訪問の現場から —

最近、中高生の修学旅行のプログラムには、体験学習の一環として多様な産業への職場訪問が組み込まれている。自分の興味のある職場で働く人々に実際に接することにより、働くことの意義を学び、自分の将来の進路を身近に考える機会とすることなどが目的とされる。

レコード産業においても、当協会および会員社が、リレーションをとりながら互いに情報を共有し、春と秋の修学旅行シーズンを軸に年間を通して修学旅行生を受け入れ、学習支援を行っている。この取り組みは、コアな音楽ユーザー層である若年層に音楽ビジネスに対する理解を促す機会になるとともに、業界全体で取り組む『若年層へ向けた音楽著作権教育』の重要なチャネルとしても機能している。

今回の特集では、長期にわたって修学旅行生の受け入れを進め、それぞれ多彩なプログラムの開拓に努めてきた(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント、エイベックス・グループ・ホールディングス(株)の2社の事例にスポットを当て、紹介する。

CASE 1 株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント

多彩なプログラムで、 音楽ビジネスへの理解を促進



よく晴れた5月半ばの東京・千代田区、SME六番町ビル。(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント内の広めのプレゼンテーションルームに、修学旅行生が学校グループごとに三々五々、入ってくる。本日は3県(宮城県・三重県・山形県)、5つの中学校から25名が参加した。1校が遅れたため待機時間があったものの、約10分の遅れで無事プログラムがスタートした。実は、電車を乗り継いできちんとたどり着くことも職場訪問学習の一環だそうだ。

今回、広報担当、高橋由和ゼネラルマネージャーがナビゲートするプログラムは、全体を通して約1時間30分。その内容は全体的に無駄がなく、スムーズな流れで進行していく。座学ばかりではなく、みずから考え、発表する体験的な要素も盛り込まれ、随所に飽きさせない工夫が盛り込まれていた。特に「プロの宣伝マンになりきる」というセッションはユニークで、生徒たちも興味津々で取り組んでいた。以下、セッションごとに内容を紹介していく。

■ レコード史の概説

エジソン、ベルリナーの蓄音機の発明から、日本最初のレコード化の話、LPの普及、CDへの移行、そして最近のPCやモバイルの音楽配信まで、音楽の聴き方の変化をコンパクトに解説。その中で、アーティストを発掘育成し、レコーディングして、その音源をヒットさせるというレコード会社のビジネスの根幹は時代を超えて変わらないことが説明される。

■ 映像による「会社訪問」+α

テレビ番組で取り上げられた会社紹介映像を放映後、レコード会社の仕事を現場の視点で紹介。実際にソニー・ミュージックで働くA&R、レコーディングスタッフ、ジャケットデザイナーほか、関係する多くのスタッフの連携で音楽作品が作られ、ユーザーに届けられるまでをインタビューを交えながらわかりやすく伝える。

プロダクションとのパートナーシップや新人発掘、各種プロモーションのエッセンスについても触れられた。

■ 著作権とエルマークの話

音楽創造サイクルの仕組みや著作権を守ることの大切さを訴える。またエルマークについてはピンポイントで詳しく紹介し、理解を促した。

■ なりきり「レコード会社宣伝担当」体験



まず学校ごとに数人のグループに分かれ、旬な7組の新人アーティストのビデオクリップ映像を観て、配られたプロフィールをもとに、興味のあるアーティスト1組を選択。そして、自分たちで選択したアーティストのセールスポイントと、そのアーティストをヒットさせるにはどうすればよいか、グループのメンバーで考えて模造紙に書いて発表する。普段のユーザーの立場から一転、送り手の立場に身を置くことで、レコード会社スタッフの想いや苦労を共有するという体験学習である。

最初は戸惑っていた生徒たちも次第にディスカッションに熱が入り、ペンの色を変えたり、イラストを添えるなど、それぞれのグループなりの工夫で模造紙に表現。短い時間のなかでさまざまな方法を考え、学園祭やネットを駆使したユニークなプロモーションを挙げるなど、取り組みに積極性がうかがえた。

■ 社内フロア探訪

実際にスタッフが働くいくつかのレーベルやアニメ会社のエントランスを訪ねて、臨場感のある現場を堪能。たまたますれ違った社員から声を掛けられ、頬を上気させながら応じる場面もあり、会議室では得がたい空気に触れることができた。



学生からの感謝の手紙

1枚のCDを出して、それがヒットするためにはたくさんのスタッフの人々がたずさわっている事が分かったので、CDを購入する消費者として、不正に音楽を聴くなどのルールを守らない行為は絶対にしてはならないということを感じました。

(岐阜県 中学生)

(アーティストの) 魅力のポイントを考えたり、キャッチフレーズを考えたりするのはとても楽しくてわくわくする作業でした。ずっと前からこういう仕事に興味を持っていたけど、実際にそういう仕事に触れることも全くなくて気持ちが決まらないままだったのですが、今回普段では絶対できないような貴重な経験ができ、将来の夢が見えてくるようになりました。とても充実した研修を受けることができ、深く感謝しています。

(広島県 高校生)

(レコード会社の仕事紹介の) ビデオを見せてもらった時に、スタッフの人々の1枚のCDにかけの思いがすごく伝わってきました。こんな思いが詰まったCDを買うことができる僕は幸せだなと思いました。

(愛知県 中学生)

Interview 1



短い時間でも、音楽ビジネスを取り巻く息づかいを感じ取ってもらえたら

責任者としてプログラムの全体構成にも携わる高橋氏に、この活動への思いを伺った。

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
経営企画グループ セネラルマネージャー
広報チーム チーフマネージャー
高橋由和氏

修学旅行生など、会社訪問を希望する学生を受け入れている理由として、ひとつには学校教育の現場からの要請に応えるという側面があります。職場との接点の希薄な子どもたちに、大人の働く現場を体感させる目的で、訪問希望の学校は増えています。また、この世代の子どもたちは、音楽ファンの大きな層を占めています。彼らに音楽ビジネスの基本的な構造を理解してもらい、今後も末永く音楽ファンであり続けてもらいたいという思いもあります。それに加えて、映像資料などを通じて当社アーティストをより身近に感じていただき、ひいては当社のファンになってもらえ

ばとの願いも持っています。

こういうプログラムは、ともすれば一方的に情報を伝えるだけになりがちですが、短い時間でも「音楽ビジネスを取り巻く息づかい」のようなものを感じ取ってもらえたら、こんなに嬉しいことはありません。今回のプログラムにあるように、たとえば、30分間レコード会社の人間になりきったときに、どういう思いがよぎったのか。それを大切に心に刻み込んでもらえればありがたいですね。「普段聴いているアーティストの裏側で、たくさんのスタッフが情熱を持って音楽づくりに取り組んでいることがわかって、音楽の聴き方

が変わった」とか、「アーティストへの思い入れがより深くなった」などの感想をいただき、ある程度成功しているんじゃないかと手応えを感じています。実は、今年入社試験を受けた学生の一人が、数年前にこのプログラムに参加したことが分かり、驚きました。そこまで学生の心を動かしたと思うと、本当に嬉しい限りです。

著作権の啓発もプログラムに加えていますが、結構素直

に受け入れてもらえています。中学生、高校生の段階で著作権をより意識するきっかけを持つことは、とても大切ですし、これから日本がコンテンツビジネスを強化していく上でも重要です。わずか1時間半ほどですが、エンタテインメントに携わる会社として、楽しみながら「音楽ビジネス」の理解を深めてもらえるプログラムの提供へ向け、日々ブラッシュアップに努めています。まだまだ進化しますよ。

CASE 2 エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社

ライブを含む、感覚に訴えるスタイルで印象的なプログラムづくりを推進



6月末、あいにくの雨を縫って、東京・港区南青山にあるエイベックス・グループ・ホールディングス(株)を、2県(愛知県、神奈川県)、4校の中学校から40名の修学旅行生が訪れた。

同社の職場訪問プログラムは、およそ1時間30分の2部構成で行われている。最初に40分弱で会社の特徴や業務内容の解説を受けるセッションがあり、その後、エンタテインメントの魅力を生で感じてもらうためアーティストによるミニライブが用意されている。体験に重点を置き、親しみやすい雰囲気にながれたプログラムの、印象的な部分をピックアップしながら紹介する。

■ 映像やビジュアル資料を駆使して会社・仕事の内容を解説

前半のセッションは、ビルの上層にある広々とした多目的スペースでスタートした。実際にアーティストが汗を流してレッスンに励む現場を肌で感じながら講義を受ける。冒頭、講師を務める広報課の渡辺明日夏氏より、本日の予定として、後ほどアーティストに会って話をしたり、ミニライブを楽しんだりする機会が設けられているとの告知が出され、やや緊張していた生徒たちからどよめき起きた。

講義ではまず、エイベックス・グループの20年間の歩みが映像で紹介された。総合エンタテインメント企業としての成長プロセスが描き出されていく。続いて、音楽CDができるまでの一連の流れが解説された。ここでは制作スタッフの仕事内容についても、かなり詳しく語られる。渡辺氏の語り口はソフトで親しみやすく、とてもフレンドリー。やや堅い内容も、わかりやすく伝えたいという配慮が見えた。



■ トークとミニライブで伝えるアーティストからの生のメッセージ



後半は、1Fエントランスの近くにある一般公開スペース「a-base」に場所を移して行われた。普段は一般の方々がエイベックス所属アーティストの新譜CD視聴などを無料で楽しむフリースペースで、エイベックス・グッズも販売されている。天井の高いすり鉢状のユニークなスペースで、アーティストの撮影や取材にも利用される。今回は貸し切りのミニライブが設けられた。

アコースティックギターを手に登場したのは、今年の2月にデビューした斉藤麻里。一瞬にして空気が変わり、ややおとなしかった生徒たちも活気づく。手拍子に乗って元気のよい声が響いた後、トークに移り、数々の質問が飛ぶ。応答の中で、音楽とは縁のなかった中学生だったのにライブを観て目覚め、集中的な活動の末にデビューを果たしたストーリーが語られていった。

そして生徒の集中力が高まっている頃に、著作権の大切さが説明され、そのままアンケートになだれ込む。一様に耳を澄まし、細かく意見を記入する姿に、プログラム構成の手際の良さを感じた。

学生からの感謝の手紙

くわしく著作権のことなどを、教えてくださってありがとうございました。私もたまに無断でCDをコピーしたりしていたので、これからは気をつけないといけなことが分かりました。
(愛知県 中学生)

私がダンサーの事で質問したとき、くわしくオーディションなどのお話もしてくださり、すごく勉強

強になり、嬉しかったです。あの場では言えませんでした。私の夢はダンスボーカリストになることです。エイベックスに研修へ行き、私の夢が明確になり、今はボーカルレッスンを受けています。そして、JURIAN BEAT CRISISさんの「Go! Let's Go!」を聞いて、一日一日を将来の夢のためにしっかり歩みたいと思いました。
(三重県 中学生)

私たちからの質問に答えていただいたとき、「一人のアーティストの仕事をたくさんの社員が支えているので…」という話を伺いました。私たちが普段何気なく見ている歌番組なども、たくさんのエイベックスの社員のみなさんが一生懸命仕事をしてくださっているからこそ見られるものなんだなぁと実感しました。
(宮城県 中学生)

Interview 2



アーティストの言葉の浸透力、 中高生の感動する力の強さを実感

メインの担当者として修学旅行生の対応にあたる渡辺氏にコメントをいただいた。

エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社
コーポレート企画本部
広報・IR室 広報課
渡辺明日夏氏

当社は本格的な修学旅行生の受け入れを2000年頃から開始し、当初、このような取り組みは学校側からの要請があればお受けするという受動的なスタンスでした。しかし、2007年から、中高生にエンタテインメントの魅力をもっと知ってほしい、将来の職業を考えるためのお手伝いができればという理念のもと、積極的に受け入れを開始。この年の9月には、学生さんだけではなく、学校の先生や旅行会社の方々がプログラム内容をすぐに閲覧できるよう「職場訪問専用WEBサイト」を開設。また、訪問数の少ない地域の旅行代理店に出向き、営業活動を実施した結果、2000年に333名だった訪問者数は、2008年に1,914名に増加し、今年は4、5月だけで1,049名にのぼります。これもエンタテインメント産業への興味、関心の高さの表れではないかと感じています。

最近、学校側から体験学習の要素を入れてほしいというニーズが高まっています。実際に働く現場に参加することが理想的ですが、これを実現するのはなかなか難しい。そこで、中高生にアンケートを実施したところ、当社訪問理由については、「アーティストとのコンタクトやアーティストの仕事内容を深く知りたい」という回答が多くを占めていました。これを受けて2008年4月からライブを組み込み、ライブのできない場合はスタジオ見学を入れて体験学習の要素を強化したのです。それ以降、同地域内での口コミの影響

力によって問い合わせや申し込み数も多くなりました。また会社説明や著作権の話については、学生の皆さんに興味を持ってもらえるよう学生さんとの対話方式で説明する工夫をしています。

学生さんの変化に着目してみると、最初は緊張からか、目も合わせてもらえないんですが、ライブが終わる頃には、緊張もとけて積極的に質問が飛び交うようになっています。これもアーティストや音楽の影響力を表しているように感じます。プログラム終了後、学生さんからの感想では、単に本プログラムの内容に関するものだけではなく、アーティストの生き方に勇気やパワーをもらったというような前向きな内容が目につきます。アーティストの言葉の浸透力は大きな影響力があると改めて感じました。著作権の話も、生のライブを体験した後ですと、とても理解してもらえるように感じます。中高生の感動する力の強さにも感嘆しますね。ライブを実施したアーティストが地方ライブを行うと修学旅行で当社に来てくれた学生さんがライブを観に来てくれたり、学校の校内放送やブログで取り上げてもらえたりと反響がとても大きい。そういった反応のよさから社内の協力も進んできました。これからも著作権の説明を含め、エンタテインメントの魅力や職業としてのアーティストの魅力など効果的な情報発信に努めて、確かな音楽ファン層である世代に、働きかけていきたいと思います。

レコード倫理審査会の役割と責任

～レコード制作者としてのモラルを考える～

レコード倫理審査会(以下レコ倫)は、昭和30(1955)年に設置され、2009年9月で654回の開催を数える。2008年は審査対象10,207作品のうち98作品がレコ倫委員から問題を指摘され、レコ倫の場で検討が行われた。

レコ倫での検討ステップは、

1. 会員社のレコ倫委員が輪番で全歌詞に目を通し、問題と思った点、疑問に思った点を報告
2. 問題を指摘された作品表現に対し、学識経験者委員が見解を提出
3. レコ倫席上で、「レコード倫理綱領」「レコード製作基準」に照らして、レコ倫委員および学識経験者委員が検討
4. 問題あり、となった作品について、発売会社に見解と対応を求める

こうした中、直近でも音楽業界の周辺では薬物関連の事件報道が頻発しており、レコード制作者としては、音楽作品が社会に、特に若者に与える影響力の強さを真摯に考え、制作活動に取り組むことがさらに重要となってきた。

レコ倫では過去何度も薬物使用を煽りかねない表現に対する注意喚起を行ってきたが、実際にはレコ倫で検討される薬物関係の表現はなかなか減少せず、昨年末も学識経験者委員より厳しい指摘を受けてきた(次ページのプロフィール欄に掲載)。

そこで、レコ倫委員の意見、またレコード協会および正副会長社の執行委員と学識経験者委員の意見を改めて集約し、この6月から問題点を指摘された作品に対する発売会社の対応を明確化した。

作品の発売責任は当然発売会社にあり、レコ倫は「レコード倫理」の趣旨と各委員の経験および情報を共有し、業界内ではあるが第三者機関的に「問題点を指摘し、検討・回答を求める」機能を持つ。従来から自社内に社内横断的な検討機関を設け、自主的に歌詞の検討を行ってきた会員社もある。また、今回のレコ倫の見直しを受けて「社内レコ倫委員会」を立ち上げた会員社もあり、今号ではその紹介と、学識経験者委員のプロフィールおよび今回のレコ倫の機能見直しの出発点となった指摘の内容を掲載する。

Interview

キングレコード(株)では、この7月より社内レコ倫委員会を設けて、レコード倫理審査への全社的な対応を強化している。レコード倫理担当として同委員会の運営に携わる管理統括部の岩淵慎治氏に、委員会設立の経緯や機能、実際の対応などについて伺った。

社内でレコード倫理情報を共有する場ができたことは大きな収穫

もともと当社は、どちらかといえば堅い社風が脈々と受け継がれてきた環境からか、レコード倫理にも意識は高く、「これくらいはいいんじゃないの?」といった雰囲気はありません。若いディレクターでも表現の自由を尊重しつつ、問題点は徹底的にアーティストと詰める姿勢が備わっています。とは言え、今まではレコード倫理審査会への回答文書は、担当ディレクターと私との協議をベースにディレクター個人名で出していました。つまり、会社の出す見解とまで言えなかったわけですが、社内統一見解の必要性が高まってきた背景もあり、当社はこのたび社内レコ倫委員会を発足し、レコード倫理向上への対応を強化しました。

委員会は管理統括部の担当役員が委員長を務め、同部が事務局になって社内5つの制作本部の本部長と受託本部の部長が参加する体制です。日本レコード協会のレコード倫理審査会で指摘があった場合には、担当ディレクターを含めて委員会メンバーを緊急招集し、各委員が自分の部門でヒヤリングし集約して持ち寄った意見を、その場で共有して議論し社内の統一見解にまとめていきます。実際に一回指摘を受けましたが、招集から意見集約までスムーズに進み、何よりも社内でレコード倫理情報を共有する場のできたことが、大きな収穫になったと手ごたえを感じています。

「問題あり」の場合は、委員会での意見集約を踏まえて、社長決裁を仰ぐ仕組みとしています。社長決裁はこれまで同様ですが、従来の横のつながりのなかった最終ジャッジに至る意見集約までの課程に、各部門の声が反映されるようになり、より明快な経営判断に資するようになったと思います。一方受託本部では、発売元の意識の向上が委員会の効果として期待されます。

薬物に関わる表現などデリケートな問題が多々ありますが、今後は委員会に加えて勉強会も実施し、制作現場からの対応強化に努めていく考えです。



キングレコード株式会社
管理統括部長(参与)兼
制作宣伝管理グループ長
岩淵慎治氏

レコード倫理審査会・学識経験者委員(4名)のプロフィールと、2008年12月に寄せられたコメントを紹介する。(敬称略)

■ 清水英夫

1922年東京都生まれ。東京大学法学部卒業。中央公論社編集部員、日本評論社「法律時報」編集長などを経て、1972年青山学院大学教授、現在は名誉教授。法学博士、弁護士。映倫委員長、出版倫理協議会議長、BRC(放送と人権等権利に関する委員会)委員長、BPO(放送倫理機構)初代理事長などを務める。著書に「法とマス・コミュニケーション」「言論法研究」「マスコミの倫理学」「表現の自由と第三者機関」など多数。



■1998年4月レコード制作基準倫理委員会(現:レコード倫理審査会)学識経験者委員に就任、現在に至る。

コメント

業界の努力により、差別表現については問題が少なくなり、事態はやや改善されたように思えるが、問題作品のうち、薬物関連が多いことに閉口する。また、指摘しても言い逃れの回答が多く、問題認識の浅さを感じる。

■ 西尾秀和

1938年東京都生まれ。青山学院大学文学部英米文学科卒業。婦人画報社を経て講談社に入社。雑誌・書籍の編集に携わった後、法務部長として訴訟問題、人権・差別問題に取り組む。この間、日本雑誌協会(編集倫理委員会、人権小委員会)、日本書籍出版協会(出版の自由と責任委員会)、マスコミ倫理懇談会全国協議会、マスコミと公共性研究会、出版・人権差別問題懇談会、民族差別と表現に関する研究会などにかかわる。



■1998年4月レコード制作基準倫理委員会(現:レコード倫理審査会)学識経験者委員に就任、現在に至る。

コメント

2008年の審査で指摘された作品内容の8割は「薬物」と「差別」が占めているが、この2つは本質的に異なった要素を持っている。「差別」表現はクリエイターが「知らなかった」ことが原因であるが、「薬物」はそのほとんどが「確信犯」的な表現である。これらは作品を手掛けるクリエイターの意識が変わらない限り完全になくすことは難しいと思うが、各社の社内チェック体制の見直し等を検討し、一刻も早く改善されるべきである。

■ 家田荘子

日本大学芸術学部卒業。高校在学中から女優を続け、その後、10種以上の職歴を経て作家に。1991年「私を抱いて、そしてキスして〜エイズ患者と過ごした一年の壮絶記録〜」で第22回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。代表作は「極道の妻たち」®「歌舞伎町シノギの人々」「四国八十八ヵ所つなぎ遍路」。1999年高野山真言宗最福寺にて得度、2007年には高野山大学にて伝法灌頂を受け僧侶に。



■1998年4月レコード制作基準倫理委員会(現:レコード倫理審査会)学識経験者委員に就任、現在に至る。

コメント

薬物関係の言葉を使用することが格好いいと思っているクリエイターが少なくなく、とても問題だと思う。社会的影響を与える立場として、歌を作っている人々に、責任感を持って、創作活動に取り組んで欲しい。また、一部の自己の都合により「表現の自由」を使い分け、「表現の自由」自体のレベルを下げているようにも感じられる。これまでの地道な活動を軸としたレコ倫の機能を、これまでに以上に発展させていくにはどうしたらいいか考える大事な時期にきているのではないだろうか。

■ 小西良太郎

1936年東京都生まれ。1958年スポーツニッポン新聞社入社。音楽担当記者、文化部長、編集局長などを経て2000年フリーに。音楽記者の草分け的存在。音楽評論家として多岐に活動、音楽プロデューサーとしても数々の名曲を生む。1999年まで日本レコード大賞審査委員長。



■2005年4月レコード倫理審査会学識経験者委員に就任、現在に至る。

コメント

一番問題としてあがる薬物関連について、本気で取り組んでいる気配が感じられないメーカーが多い。この現状を「制作現場」はどう捉え、今後をどうしていこうとするのか? 審査状況を差し戻し、送り返して各社内で「詰めの話し合い」の機会を作るのも、一策である。制作サイドがクリエイターを後ろ手にかばう形で言い訳ばかりするのも、いかがなものだろうか。

特 報

Special Report

音楽著作権関係の権利者7団体 「権利制限の一般規定」について意見書を提出

8月25日、文化審議会著作権分科会法制問題小委員会（第4回）が開催された。今年度の同小委員会の検討テーマである「権利制限の一般規定導入の是非」について、関係団体に対するヒアリングが実施され、当協会から高杉理事・事務局長が出席した。

（社）日本音楽著作権協会、（社）日本芸能実演家団体協議会、（社）日本音楽事業者協会、（社）音楽出版社協会、（社）音楽制作者連盟、日本音楽作家団体協議会、および当協会の音楽関係7団体は意見を集約し、下記の通り、導入反対の意見書を提出した。

権利制限の一般規定については、知的財産推進計画2009の中で、「2009年度中に結論を得て、早急に措置を講ずる。」と記載されたものの、権利者団体等の導入反対の意見も多く、同審議会の答申がどのような内容になるのか予測できない状況である。当協会は引き続き、審議の動向に注目すると共に、会員社、他団体と連携を取りながら、必要に応じて追加の意見書提出を行うなどの対応をしていく。

「権利制限の一般規定」に対する意見

1. 検討の前提についての問題点

- (1) 「権利制限の一般規定」を導入すべきとの意見には、実質的には権利者の利益を不当に害しているとまでは言えない著作物の利用への対応に関するものと、ネットワークにおけるコンテンツの流通促進に名を借りて、ビジネスにおける著作権侵害の例外を拡大させようとするものがあるが、これらは本来、同列に議論すべきものではない。
- (2) ベルヌ条約等が定めるスリーステップテスト*に適合するか否かについても、十分な検討が未だになされていない。

2. 反対の理由

- (1) 実質的に権利者の利益を不当に害しないような利用については、現行著作権法における個別権利制限規定の下で、権利者による許諾等の対応が既になされており、特段の問題は生じていない。
- (2) 「権利制限の一般規定」を導入することによって、コンテンツの流通が促進されたり、新規ビジネスが遂行し易くなるといった根拠のない主張に基づいて、権利者の権利を制限すべきではない。
- (3) 「権利制限の一般規定」が、実質的に権利者の利益を侵害する事例にまで拡大して適用されるおそれがある。

- (4) 法定損害賠償・懲罰的損害賠償制度などを設けずに、「権利制限の一般規定」のみ導入することは侵害のし得を許し、当事者間の公平性を欠く。
- (5) インターネット上に適法コンテンツを上回る程大量の違法コンテンツがあふれている中で、仮に「権利制限の一般規定」を導入した場合、それを盾にとって侵害ではないと主張する、いわゆる「居直り侵害者」が多数現れる可能性が高く、権利者が対処しなければならない時間、労力及びコスト等の負担が一方向的に増大する。
- (6) 仮に「権利制限の一般規定」の対象範囲を非営利・零細な利用に限って検討するとしても、私的使用のための複製やその他の個別権利制限規定との関係が明確ではなく、権利者の不利益がさらに拡大することが懸念される。

法制問題小委員会における検討に対する要望

1. 音楽著作物の利用について不都合が生じたり、新規ビジネスに対する委縮効果や新技術への対応が遅れている具体例があるのであれば、むしろ、利用許諾や個別権利制限規定による対応の可能性を十分に検討すべきである。
2. 産業・経済の発展の視点に偏らず、文化の発展に寄与するという著作権法の目的に立ち返って検討すべきである。

・ 社団法人 日本音楽著作権協会

・ 社団法人 日本芸能実演家団体協議会

・ 社団法人 日本レコード協会

・ 社団法人 日本音楽事業者協会

・ 社団法人 音楽出版社協会

・ 社団法人 音楽制作者連盟

・ 日本音楽作家団体協議会

※ スリーステップテスト：

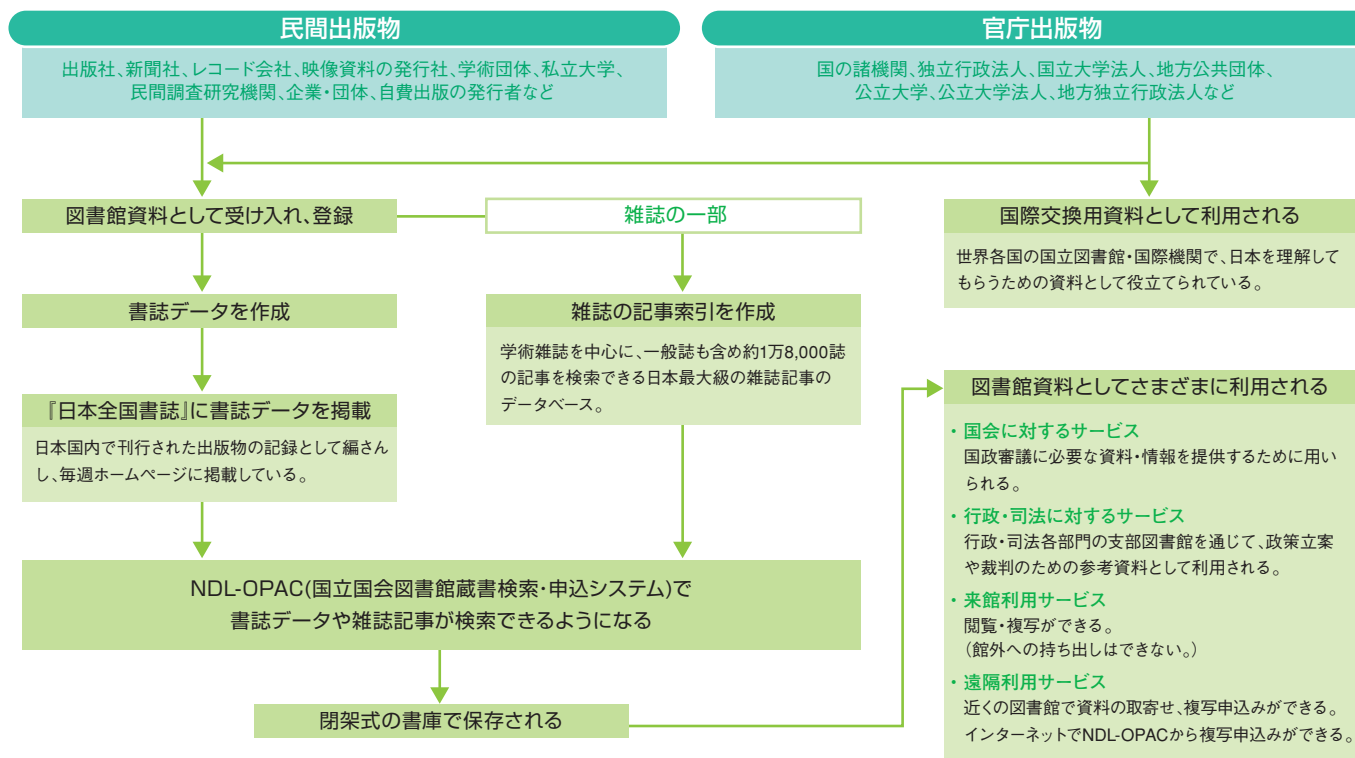
ベルヌ条約第9条第2項が定めるスリーステップテストは、複製権（録音・録画を含む）について、(1) 特別な場合について、(2) 著作物の通常の利用を妨げず、(3) その著作権の正当な利益を不当に害さないことを満たすとき、国内法令において、制限・例外規定を定めることを認めている。

納本制度の役割と音楽文化の保存

国立国会図書館は、昨年、開館60周年を迎えた。同じ年の1948年5月25日に納本制度による資料収集が開始され、国立国会図書館では、この日を「納本制度の日」と定め、同制度の周知に努めている。納本制度は、文化の利用と保存を目的とし、国内で発行された全ての出版物をその国の責任ある公的機関に納入することを発行者に義務づける制度のことであり、これらは、国会の審議に資するものとし、議会の調査等にも利用されている。また納本された資料は、国民共有の文化的資産として広く利用されるとともに、日本国民の知的活動の記録として永く保存され、後世に継承される。さらに、これらの資料は、国立国会図書館公式サイト上の「日本全国書誌」やNDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索)にデータが掲載され、誰が・いつ・どんなものを作成したかを手軽に知ることができる仕組みとなっている。

音楽CD、ビデオ等も納本制度の対象であり、当協会会員社も積極的に本制度への協力に取り組んでいる。今後、レコード産業全体においても、本制度の認知・理解を図り、文化の保存に対し一層の協力体制を整えることが必要とされる。

● 納本された出版物のその後(整理・保存・利用)



貴重な文化資産
を保存する書庫



国立国会図書館新館の書庫は地下8階までと続くが、中央に太陽の光を取り込む吹き抜けがあり、圧迫感を感じさせない構造となっている。貴重な文化資産が整然と並ぶ書庫には、凜とした空気が漂う。

音楽・映像資料室では、調査・研究を目的とする場合にのみ、音楽録音資料・映像資料を利用できる。ここでは、音盤の再生機へのセットは、基本的に職員が行うことになっており、音盤の劣化の防止に努めている。特に針を落すこ

とにより盤が磨耗するアナログレコード等は、レーザー機器で音を拾うことにより、針をレコード盤に直接触れさせずに音を楽しむことができる。徹底した管理体制により、貴重な文化資産を保存しているのである。



音楽・映像資料の再生は
職員によって行われる



音楽・映像資料室の視聴コーナー

私の一枚

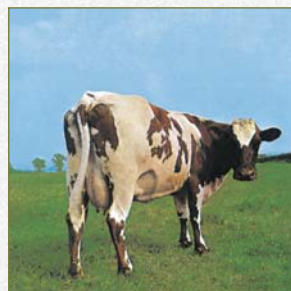


石坂敬一

(社)日本レコード協会 会長
(ユニバーサル ミュージック合同会社
最高経営責任者兼会長)

●「原子心母」(ピンク・フロイド)

1970年の10月、遂にマスターテープを手にいれた。早速、試聴室にとじこもって音を聴いた。凄い長編だ。スケールもどでかい。何と美しい旋律なんだ。そして航空母艦を思いおこさせる超ド級の重量感。アメリカからはまず生まれない、そしてビートルズもキング・クリムゾンも発想し得ない、雄大かつ繊細な、高品質の音のかたまり。これこそがイギリスの異端にして、世界のロック勢力の中の新勢力ピンク・フロイドの真骨頂だ。



原題はATOM HEART MOTHER。ジャケットの表は一頭の牛の写真。よだれが出てるけど牛らしい立派な顔。内側にはひっそりとした静寂の田園風景。日本語のタイトルは『原子心母』というものにした。その頃、私は洋楽の原題がきらいで日本語のタイトルをつけることにこだわった。赤坂にある洋食レストラン“津々井”のフレーズ「日本の洋食」という表現に共鳴していた。そうだ、日本人には日本語にきまっている。ビクトル・ユゴーの「レ・ミゼラブル」だって黒岩涙香がつけた題「ああ無情」の方がはるかに分かりやすいし内容を適確に表現しているではないか。という訳でこのアルバムは1971年1月に日本で発売となった。イニシャルは800枚。それまで実績のないピンク・フロイドではそんなものだ。

ポスターは宇野亜喜良氏にたのんだ。この大御所は、さすがにとんでもない素晴らしい絵を描いてくれた。ボッシュの「悦楽の園」を挿入した幻想的なポスターは、同時期に私が横尾忠則氏に強くお願いしたザ・ビートルズの鋭角的描写のポスターと並んで、今やコレクター垂涎の的となっている。そして宣伝文句は「ピンク・フロイドの道はプログレッシブ・ロックの道なり」にした。このプログレという日本語英語は、その後、渋谷陽一氏の力を借りて定着していく。宣伝広告費は150万円だった。当時の洋楽ではフツウの額だ。

いい時代だった。入社3年で何でも自分で決めて、行動できたのだから東芝音楽工業(株)はイイ会社だった。私は週刊平凡からジャズ批評、スイングジャーナルまで、殆んどすべての活字媒体にこの盤を売りこんだ。牛のジャケは次第に有名になってきた。赤坂のディスコの“ムゲン”や“ビブロス”はもとより、六本木のレストランやバーの多くに牛の顔のジャケットをはらしてもらった。1曲20分もあるこの第一テーマ曲はラジオにかかる訳がない、と思いこんでいたら福田一郎氏がTBSラジオの「バック・イン・ミュージック」で丸々かけてくれた。ディレクターはTBSの川口さんだったな。

ハード・ロック、ヘビメタ、フォーク、そしてドボルザークの“新世界”的な重厚でもの悲しい旋律にあふれたこの「原子心母」は当時のできたてのオリコンで最上位に食い込み、その頃で30万枚以上売れた。累計は60万枚以上と聞く。1970年代のブリティッシュ・ロック、プログレの隆盛の先駆けとなったと自負している。

デジタル時代の今日、ピンク・フロイドのような恐竜の如き存在はまるで収まりきれない。もうずっと出てこないだろう。

2009年第2四半期(4月～6月)および上半期音楽配信売上実績について

2009年第2四半期は、数量で前年同期比97%の1億1,545万ダウンロード、金額で前年同期比98%の221億4,900万円となりました。

内訳では、インターネットダウンロードが、金額で前年比108%の24億1,100万円、モバイルダウンロードが、前年比98%の193億3,800万円、サブスクリプション等その他が、4億円となっています。

この結果、2008年上半期の累計では、数量で前年比97%の2億3,373万ダウンロード、金額で前年比99%の446億1,500万円となりました。

(数量:千回/金額:百万円)

	形態	2009年4月～2009年6月 累計			
		数 量	前年同期比	金 額	前年同期比
インターネット ダウンロード	シングルトラック	10,406	110%	1,586	108%
	アルバム	579	110%	704	106%
	小計 (オーディオダウンロード分)	10,984	110%	2,290	108%
	音楽ビデオ	391	112%	121	121%
	その他	0	—	0	—
	合計	11,376	110%	2,411	108%
モバイル	Ringtunes	39,817	88%	4,120	82%
	Ringback tunes	27,355	114%	2,400	120%
	シングルトラック	34,666	96%	11,979	100%
	音楽ビデオ	1,922	87%	691	103%
	その他	297	40%	149	89%
	合計	104,057	96%	19,338	98%
その他	サブスクリプション (インターネット)			198	91%
	サブスクリプション (モバイル)			95	112%
	その他 (その他のデジタル音楽コンテンツ)	15	—	107	63%
総合計		115,448	97%	22,149	98%

(数量:千回/金額:百万円)

	形態	2009年1月～2009年6月 累計			
		数 量	前年同期比	金 額	前年同期比
インターネット ダウンロード	シングルトラック	20,740	112%	3,165	112%
	アルバム	1,200	114%	1,437	113%
	小計 (オーディオダウンロード分)	21,939	112%	4,602	112%
	音楽ビデオ	823	112%	255	122%
	その他	0	—	0	—
	合計	22,762	112%	4,857	113%
モバイル	Ringtunes	81,073	84%	8,571	79%
	Ringback tunes	55,472	119%	4,796	124%
	シングルトラック	69,408	98%	23,816	102%
	音楽ビデオ	4,003	86%	1,419	104%
	その他	982	92%	368	122%
	合計	210,937	96%	38,970	98%
その他	サブスクリプション (インターネット)			364	95%
	サブスクリプション (モバイル)			195	100%
	その他 (その他のデジタル音楽コンテンツ)	29	429%	228	76%
総合計		233,729	97%	44,615	99%

注:数量…ダウンロード回数

Monthly Production Report

2009年7月度レコード生産実績

7月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)生産実績は、数量で前年同月比84%の2,215万枚・巻、金額で同79%の247億円となりました。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比87%の1,779万枚・巻、金額で同82%の217億円、音楽ビデオが、数量で前年同月比72%の436万枚・巻、金額で同60%の30億円となっています。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻／金額:百万円)

			7月実績					2009年1月～2009年7月累計						
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
シン グ ル	8cmCD	邦	6	0	81%	2	0	48%	49	0	38%	25	0	35%
		洋	0	0	-	0	0	-	3	0	10%	1	0	19%
		計	7	0	82%	3	0	49%	52	0	33%	26	0	34%
	12cmCD	邦	4,408	25	82%	3,589	17	91%	27,143	23	87%	21,085	15	91%
		洋	36	0	367%	18	0	279%	228	0	65%	128	0	91%
		計	4,445	25	82%	3,607	17	91%	27,371	23	87%	21,212	15	91%
	小計	邦	4,415	25	82%	3,591	17	91%	27,191	23	87%	21,110	15	90%
		洋	36	0	368%	19	0	280%	231	0	61%	128	0	89%
		計	4,451	25	82%	3,610	17	91%	27,422	23	87%	21,239	15	90%
	12cmCD アルバム	邦	9,276	52	87%	13,246	61	77%	65,209	55	86%	88,302	63	80%
		洋	3,769	21	94%	4,565	21	95%	24,046	20	76%	28,895	21	80%
		計	13,046	73	89%	17,810	82	81%	89,254	75	83%	117,198	83	80%
CD 合計	邦	13,691	77	85%	16,837	78	79%	92,400	77	86%	109,412	78	82%	
	洋	3,806	21	95%	4,583	21	96%	24,277	20	76%	29,024	21	80%	
	計	17,497	98	87%	21,420	99	82%	116,677	98	84%	138,436	98	81%	
アナログ ディスク	邦	4	0	33%	4	0	27%	37	0	52%	67	0	66%	
	洋	5	0	159%	10	0	127%	20	0	48%	29	0	35%	
	計	9	0	59%	14	0	61%	57	0	51%	96	0	52%	
カセット テープ	邦	268	2	98%	214	1	96%	2,350	2	86%	1,782	1	82%	
	洋	0	0	-	0	0	-	0	0	0%	0	0	0%	
	計	268	2	98%	214	1	96%	2,350	2	86%	1,782	1	82%	
その他	邦	8	0	39%	14	0	34%	107	0	65%	119	0	41%	
	洋	7	0	95%	12	0	84%	93	0	68%	174	0	98%	
	計	15	0	53%	25	0	47%	200	0	67%	293	0	62%	
合 計	邦	13,971	79	85%	17,069	79	79%	94,894	80	86%	111,380	79	82%	
	洋	3,818	21	95%	4,604	21	96%	24,390	20	76%	29,227	21	80%	
	計	17,789	100	87%	21,673	100	82%	119,284	100	84%	140,607	100	81%	

● 音楽ビデオ

		7月実績						2009年1月～2009年7月累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD	邦	3,712	85	64%	1,773	59	39%	29,139	92	94%	28,016	87	77%
	洋	620	14	221%	1,177	39	245%	2,350	7	104%	3,600	11	102%
	計	4,332	99	71%	2,950	98	58%	31,489	99	95%	31,616	98	80%
テープ・LDその他		29	1	748%	75	2	523%	207	1	319%	490	2	315%
合 計	邦	3,734	86	64%	1,828	60	40%	29,328	93	94%	28,454	89	78%
	洋	627	14	224%	1,197	40	248%	2,368	7	105%	3,652	11	103%
	計	4,361	100	72%	3,025	100	60%	31,696	100	95%	32,106	100	81%

● 音楽ソフト(オーディオ／音楽ビデオ合計)

	7月実績						2009年1月～2009年7月累計					
	数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ	17,789	80	87%	21,673	88	82%	119,284	79	84%	140,607	81	81%
音楽ビデオ	4,361	20	72%	3,025	12	60%	31,696	21	95%	32,106	19	81%
合 計	22,150	100	84%	24,698	100	79%	150,980	100	86%	172,713	100	81%

● ビデオ(含音楽ビデオ)

	7月実績						2009年1月～2009年7月累計					
	数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD	8,653	97	91%	12,825	92	95%	58,777	98	105%	99,714	95	96%
テープ・LDその他	265	3	1685%	1,046	8	1737%	1,247	2	707%	4,992	5	874%
合 計	8,918	100	93%	13,871	100	102%	60,024	100	106%	104,706	100	100%

● オーディオ／ビデオ合計

	7月実績						2009年1月～2009年7月累計					
	数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ	17,789	67	87%	21,673	61	82%	119,284	67	84%	140,607	57	81%
ビデオ	8,918	33	93%	13,871	39	102%	60,024	33	106%	104,706	43	100%
合 計	26,707	100	89%	35,544	100	89%	179,308	100	90%	245,313	100	88%

備考 1. 上記実績は、会員会社「58社」の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※ オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

音楽ソフト

邦 楽

アルバム

● プラチナ

Ring 4	加藤ミリヤ Perfume	2009.07.08 2009.07.08	SR TJC
-----------	------------------	--------------------------	-----------

● ゴールド

hikari	シド	2009.07.01	KS
テゴマスのうた	テゴマス	2009.07.15	JE
Five in the Black	東方神起	2007.03.14	AMI
LOVE one.	西野カナ	2009.06.24	SE
放課後ティータイム	放課後ティータイム	2009.07.22	PC
JOURNEY	RIP SLYME	2009.06.10	WJ
GUNDAM00 COMPLETE BEST	ヴァリアス	2009.07.08	SM

シングル

● プラチナ

THE HURRICANE ～FIREWORKS～ 悪魔な恋／NYC	EXILE 中山優馬 w/ B.I.Shadow・NYC boys	2009.07.22 2009.07.15	AMI JE
---------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------	-----------

● ゴールド

3 SPLASH	倅田来未	2009.07.08	AMI
STAY	コブクロ	2009.07.15	WJ
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番	辻井伸行×佐渡 裕	2008.10.22	AMI
七夕祭り	テゴマス	2009.07.08	JE
Stand by U	東方神起	2009.07.01	AMI
妖 ～あやかし～	堂本光一	2009.07.29	JE
泣いてもいいですか	フレンズ&ヘキサゴンオールスターズ	2009.07.15	PC

ビデオ

● ゴールド

3rd LIVE TOUR 2008 ～T～	東方神起	2008.08.06	AMI
------------------------	------	------------	-----

洋 楽

アルバム

● プラチナ

キング・オブ・ポップー ジャパン・エディション	マイケル・ジャクソン	2008.09.24	SI
-------------------------	------------	------------	----

ビデオ

● ゴールド

Number Ones	マイケル・ジャクソン	2004.03.10	SI
ビデオ・グレイテスト・ヒッツ～ヒストリー	マイケル・ジャクソン	2005.12.07	SI
ライヴ・イン・プカレスト	マイケル・ジャクソン	2005.12.07	SI

※日付は発売日

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた®、着うたフル®, パソコンダウンロードシングル・アルバム)共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上
以降、100万毎に賞を設定		

基準単位：音楽ソフト・枚、配信・DL(ダウンロード)
※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※AI：ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ／
AMI：エイベックス・マーケティング／C：コロムビアミュージックエンタテインメント／DF：デフスターレコーズ／
EMI：EMIミュージック・ジャパン／ES：EPICレコードジャパン／JE：ジャニーズ・エンタテインメント／KS：キューンレコード／PC：ポニーキャニオン／SE：エスエムイーレコーズ／SI：ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル／SM：ミュージックレイン／SR：ソニー・ミュージックレコーズ／TJC：徳間ジャパンコミュニケーションズ／
UM：ユニバーサルミュージック／WJ：ワーナーミュージック・ジャパン／YRC：よしもとアール・アンド・シー

有料音楽配信(「着うた®」他)

※「着うた®」「着うたフル®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

「着うた®」

邦 楽

● トリプル・プラチナ

やさしさで溢れるように	JUJU	2009.01.28	AI
-------------	------	------------	----

「着うたフル®」

邦 楽

● トリプル・プラチナ

遥か	GReeeeN	2009.05.20	UM
----	---------	------------	----

● ダブル・プラチナ

Love Forever	加藤ミリヤ×清水翔太	2009.05.13	SR
--------------	------------	------------	----

● プラチナ

Butterfly	木村カエラ	2009.06.01	C
嘘	シド	2009.04.22	KS
Share The World	東方神起	2009.04.16	AMI
君に会いたくなるから	西野カナ	2009.05.20	SE
哀歌(エレジー)	平井 堅	2007.01.31	DF
桜坂	福山雅治	2005.12.14	UM
たんぽぽ	遊助	2009.06.24	SR

● ゴールド

ブルメリア ～花唄～	Aqua Timez	2009.07.08	ES
優しい光	EXILE	2009.07.22	AMI
I LOVE YOU	尾崎 豊	2009.04.25	SR
Aitai	加藤ミリヤ	2009.07.01	SR
ディア ロンリーガール	加藤ミリヤ	2006.07.26	SR
Infinity	GIRL NEXT DOOR	2009.06.17	AMI

Lick me	倅田来未 桜高軽音部	2009.07.01	AMI
Cagayake!GIRLS	[平沢唯・秋山澪・田井中律・ 琴吹紬(CV:豊崎愛生、日笠陽子、 佐藤聡美、寿美菜子)]	2009.04.22	PC
夏祭り	ジッターリン・ジン	2008.07.31	C
君の声を feat.VERBAL (m-flo)	西野カナ	2009.06.24	SE
最愛	福山雅治	2009.06.26	UM
泣いてもいいですか (フレンズバージョン)	フレンズ	2009.07.15	PC
逢いたい…	YU-A	2009.04.08	YRC
おしゃかしゃま	RADWIMPS	2009.01.21	EMI

洋 楽

● プラチナ

ビコーズ・オブ・ユー	Ne-Yo	2007.04.02	UM
------------	-------	------------	----

● ゴールド

タイム・トゥ・セイ・グッバイ (ソロ・ヴァージョン)	サラ・ブライトマン	2006.11.01	EMI
-------------------------------	-----------	------------	-----

PC配信(シングル)

邦 楽

● ダブル・プラチナ

愛唄	GReeeeN	2007.05.16	UM
----	---------	------------	----

● ゴールド

Butterfly	木村カエラ	2009.06.10	C
遥か	GReeeeN	2009.05.27	UM

※日付は配信開始日

協会からのお知らせ

当協会では、2003年より「音楽の正しい楽しみ方」を音楽ユーザーの皆さまに広く知っていただくため、音楽創造のサイクルや著作権法についてわかり易く説明したパンフレットを作成し、音楽関係団体のご協力のもとCDショップや学校教育の現場、講演会等で配布し、活用いただいております。

この度、2010年1月1日より施行される改正著作権法の内容を新たに盛り込み、パンフレットの改訂を行いました。

当協会では引き続き、音楽著作権に関するマナーとルールについて、若年層を中心に広く訴求していきます。

パンフレットをご希望の方は、当協会広報部(03-6406-0514)まで、ご連絡下さい。



Respect
our MUSIC



携帯音楽を守りたい

違法な音楽ファイルの利用はやめましょう

<http://www.mamo-on.jp>

THE RECORD No.598 2009年9月号

社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 石坂 敬一
編集人 生野 秀年
発行日 2009年9月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL. 03-6406-0510(代) FAX. 03-6406-0520(代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

毎年、春・秋になると学生の皆さんが修学旅行のプログラムの一環として、職場に訪問されます。音楽創造のサイクルや著作権の話をする、「音楽制作にこんなに沢山の人が関わっていると知り、もっと音楽を大切にしようと思った」「掲示板(携帯サイト)から無料でダウンロードすることが音楽の未来を壊しているなんて知らなかった」等の感想をいただきます。直接話し、何かを感じてもらうというプロセスは手間を掛けた分だけ、一人ひとりの心に届いていることを感じます。今月号は会員社で取り組んでいる修学旅行生職場訪問のプログラムを紹介しています。各社それぞれのアプローチ方法で、訪れた学生に音楽ビジネスへの理解、著作権を大切にすることの重要性を訴えかけています。(T)

■ 当機関誌へのご意見・ご感想がございましたら、当協会公式サイト(URL: <http://www.riaj.or.jp>) のお問い合わせページよりお寄せ下さい。